

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014 年 4 月～2015 年 3 月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP 等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 三重県立木本高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒519-4323
三重県熊野市木本町 1101-4

E-mail : hkimotad@hkimot.mie-c.ed.jp

Website : http://www.mie-c.ed.jp/hkimot/

児童生徒数：男子 292 名 女子 311 名 合計 603 名
 児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

平成26年度おもな取り組み

- 地域文化・歴史を学ぶ講演会
- 防災プロジェクト
- 熊野古道ガイド養成プロジェクト

詳細

1. 近隣地域において貢献され、活躍されている方々の講演会
(「LHR」「総合的な学習の時間」「産業社会と人間」での実施)

1年次生対象：「紀伊山地の霊場と参詣道」を中心とした世界遺産学習

①4/14(月)「熊野古道のお話」

講師：熊野古道語り部友の会副会長 山口 朝さん

内容：熊野古道を歩くコースの遠足の事前学習として、熊野古道の歴史や意義、そして世界遺産登録の経緯などについて学んだ。

②11/20(木)「熊野古道の魅力とその意義」

講師：紀北教育研究所所長 小倉 肇さん

内容：熊野古道に関わるエピソードや、これからの熊野古道を維持していく上での課題についてお話を伺った。

③12/11(木)「熊野曼荼羅の絵解き」

講師：新宮市学芸員 山本殖生さん

内容：熊野比丘尼が熊野三山の修復資金を勧進する手段として使った熊野曼荼羅の絵解きを通して曼荼羅に込められたメッセージやエピソードを教わった。

④1/22(木)「熊野古道の持続可能な観光」

講師：「くまの体験企画」代表 内山裕紀子さん

内容：熊野古道の案内をエコツーリズムの精神で企画・運営するに至った経緯と、事業に関わることのやりがいについてお話を伺った。

2年次生対象：地域の文化や歴史等に関する学習

① 11/27(木)「佐藤春夫について」

講師：佐藤春夫記念館館長 辻本雄一さん

内容：本校校歌の作詞者であり、また熊野市とも縁のある佐藤春夫の文学作品や、それに関わるエピソードを通して、佐藤春夫の人生観について学んだ。

②12/11(木)「熊野地域の大逆事件について」

講師：佐藤春夫記念館館長 辻本雄一さん

内容：言論弾圧の中で地元の知識人たちが有罪判決を受け、戦後のなって多くの受刑者たちの名誉が回復された大逆事件について、その時代背景や受刑者となった人たちの「相互扶助」の精神について学んだ。

2 防災プロジェクト 10/23（金）

内容：①地図を使用した避難ルートの確認

②班ごとに分かれ、本校から最寄り駅までの通学路及びその周辺の街歩きをし、危険箇所を探す。

参加者：木本高等学校 1 学年防災委員及び有志生徒

1 学年担任及び有志職員

「防災実践行動力育成」というテーマのもと、登下校時に大地震・大津波が来ることを想定して、どこへ避難したらよいかを確認する目的で行った。実際に避難ルートを歩いてみることで、生徒たち自身が危険箇所に気付き、有事の際には臨機応変に対応できるリーダー的生徒を育てる機会となった。

当日参加した生徒、職員からは、「避難ルートをきちんと知っておくことは、自分たちの命を守るための第一歩だ」「危険箇所のあったルートは改めて見直し、安全な避難ルートを確立していきたい」というような感想が語られた。今後も引き続き、学校内のみならず、地域住民や消防関係者の方々と協力して防災意識を高めていきたい。

3 熊野古道語り部育成プロジェクト

平成 16 年 7 月、「紀伊山地の霊場とその参詣道」がユネスコの世界遺産に登録され、本校の立地する地域にある「松本峠」「浜街道」「花の窟」等も登録入りをした。一方、熊野地域の過疎化の進行は止まらず、熊野古道の語り部や保全活動の担い手の方々が高齢化してきていることは大きな課題となっている。

そういった状況の中、国内外からの古道をガイドでき、世界遺産の文化的価値を次世代に継承できる後継者の育成を目的として、「熊野古道語り部育成プロジェクト」を行った。

今年度は第 3 回となるが、昨年度と同じく、熊野古道「松本峠」に関して日本語と英語でガイドができるようになることを目指した。

○第 1 回 8/5(火)

内容：熊野古道についての DVD を観て歴史や現状を学習した後、地元の語り部さんと一緒に松本峠の実地踏査を行った。生徒たちは、時には観光客として、時にはガイド見習いとしての両面から語り部さんのお話を伺い、ガイドのノウハウを学んだ。

実地踏査後、学校にて日本語によるガイド文を作成し、語り部さんにも聞いていただきながらスライドを使った校内プレゼンテーショ

ンを行った。

8/6(水)

英語によるガイド文作成と校内プレゼンテーション

参加者：木本高等学校 JRC 部員及び卒業生を含む有志生徒
木本高等学校英語科教員及び有志職員

人前で話すことが苦手な生徒も、身振り手振りを使って工夫し、語り部さんから学んだガイド内容を一生懸命伝えようとする姿が見られた。生まれたときから熊野に住んでいる生徒が多数であったが、身近な熊野古道について知らないことも多く、改めて地域のことを学ぶ機会となった。熊野古道を整備し、守り続けてきた先人の思いを感じ取り、これからの世代の役割とは何かを考える場面も見られた。発表後の感想として、「自分たち自身が親となったときに子どもに語り、またその子どもが次の世代にと、どんどん語り継げるようにしていかなければならない」とか、「地域との関わりや団結が、世界遺産を守っていくということなのだと思った」という声があり、参加した生徒にとって意識を高める機会となった。

○第2回 1/24(土)

内容：8月に学んだ知識やガイドスキルを実践する機会として、「熊野古道プロジェクト第2弾」を行った。

三重大学への留学生30名を対象とした英語ガイド班と、日本語が理解できる留学生及び日本人参加者を対象とした日本語班に分かれ、実際にツアーを企画し、熊野古道ガイドの実践を行った。

また、熊野市新鹿町内において林業に携わっておられる方のお話を伺い、実際に林業の技術を見学し、体験もすることができた。

参加者：木本高等学校 JRC 部及び卒業生を含む有志生徒
木本高等学校英語科教員及び有志職員

三重大学留学生30名

三重大学ユネスコクラブ(代表者は教育学部技術・ものづくり教育講座の松岡守教授)

ウィズみえユネスコクラブ(代表者は鳥羽高校事務員)

本校からは12名の生徒がガイドとして参加し、ミャンマー、インドネシア、中国、アフガニスタンからの三重大学留学生を対象とする英語ガイド班とその他の日本人参加者及び日本語が理解できる留学生を対象とする日本語ガイド班の二班に分かれ、ガイドする箇所を分担の上、それぞれの言語で熊野古道ガイドを行った。当日まで生徒たちは、夏に行った経験を活かし、自分なりに様々な表現を使って練習したり、ALTに発音を繰り返し確認し、より滑らかな英語で伝えることができるように練習を重ねたりしていた。実際のガイドにおいては、最初は緊張している様子であったが、次第に年齢や国籍に関係なく積極的にコ

コミュニケーションを取り、予想外の質問に対しても一生懸命英語で説明しようとする姿が見られた。また日本人同士のやり取りにおいても、自分たちの地域に関する質問などに真摯に答えようとする様子が見られ、生徒たちの説明に対して歓声や拍手が起こる場面もあった。

新鹿町内における林業体験では、各国の留学生たちと一緒に間伐やツリークライミングといった林業の技の見学をした後、実際に体験する場面では、自然と共存しながら働き、生きることの大変さを真剣に学んでいた。また、現在の熊野の森林の状況や、災害への対策などについても考える機会となった。

まとめ

本校の生徒たちの身近にある熊野古道を通して、文化遺産というものは、人が守り、人が口伝していくものであるということに改めて実感することができた。また、熊野古道プロジェクトに参加して様々な人と関わり合うことで、生徒の実践的な活動への意欲が高まったように思われる。「過疎が進行している地域ではあるが、進学や就職で離れても、またいつか熊野の地に戻り、この地域のことを国内外に発信していきたい」という声が印象的であった。

今後も本校では、地域の方々との繋がりを大切にしながら、世界遺産、防災、環境に関して生徒たちが学ぶ機会を持ち、その成果の発信をサポートしていきたい。また、生徒から「今後もこの活動を続けていきたい」という言葉があったように、一度きりのイベントではなく、持続的な学習として各プロジェクトを行っていき、生徒たちが「熊野」という地域と生徒たちが関わっていけるようにしたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ JRC 部活動の一環として ）